

「あなたがたの髪の毛までも一本残らず数えられている」



幼稚園主事  
石橋 エリ  
ISHIBASHI ERI

私は毎日幼稚園で、お母様方とかかわりながら、子育ては人生の中においてなんと幸せな時期なのでしょうと羨ましく思います。しかし当のお母様方にその様にお話すると、以下の様に仰る方が多いのです。「いいえ先生、ただただ毎日大変です」。あるお母様はこうも仰いました。「幼稚園から帰って娘と二人でいるとこれでもいいのかと不安で、よくないと知りつつ、ついついお稽古事の予定を毎日の様に入れてしまっています」。

確かに我が子がどの様に育つのが自分の手にかかっているのだと思えば、お母様方がプレッシャーに感じるのも無理はないのかもしれませんが。

示されている聖句です。この様な方が伴ってくださることを確信できる生き方に変えられることは幸いです。

この様に親としての自分に伴ってくださり、困難の中でも根底で支えてくださる神様です。では神様は、私達の子ども達にも伴っていてく



更に小学生、中学生と子どもが大きくなり、親子の前に乗り越えなければならぬ壁が出現したとき、その壁は幼児期のそれよりもさらに高く厚いものを感じるのではないのでしょうか。私自身もそうでした。しかし同時に、高く厚い壁を前にしても、絶望せず、ずっと下の方から神様に支えられている安心感の中にいられたこともまた私は今になって思い出します。

さて、クリスマスチャンは皆、何らかの自分の努力でクリスマスチャンになったではありません。「神様が」私を捉えてくださったことに気づき、主語を「自分」から「主イエス・キリストの父なる神様」とする生き方に変えられ、そして神

ださるのでしょうか。

昨年度の2月に、幼稚園では保護者に向けての講演会に、フィリピンのミンダナオ島の「ミンダナオ子ども図書館」創設ディレクターである松居友さんをお招きしました。松居友さんは児童文学者ですが、ミンダナオの紛争で親を亡くしたり貧困の生活を強いられている子ども達に生活と勉強の場を与えようと、100人近い子ども達と一緒に暮らしておられます。松居友さんご自身はクリスマスチャンですが子ども達の宗教は様々です。

松居友さんはご自身が文を書かれた絵本『サンパギータのくびかざり（今人舎）』を講演の中で保護者に読み聞かせてくださいました。ミンダナオの人々の生活や文化が背景になっているこの絵本は、以下の様な内容です。リンという女の子が、病気のお母さんにごはんを買うためにサンパギータの花で首飾りを作りますが、首飾りはなかなか売れません。やがてリンの願いは叶わずお母さんは亡くなります。リンは悲しみで何もする気になれずただ毎日ぼんやりと過ごすようになります。しかし不思議な女の人の出会いを通して、リンはある夜、お母さんにもう一度会うことができました。この時リンの「かあちゃん、わたし、いつもかあちゃんと、いっしょにいたい」との言葉にお母さんはリンを抱きしめてこう語りか

様の招きに応えて「主よ信じます」と告白しつつ生きる様になるのです。すると祈れないような困難の中にあっても必ず伴っていてくださる神様がいてくださるのだと信じて安心していくことができます。

自分自身が小学生の時にミッションスクールであった学校の廊下に「今月の聖句」として「あなたがたの髪の毛までも一本残らず数えられている。(ルカによる福音書12:7)」というポスターが貼られていました。「神様は私の髪の毛の数をご存知なの？」とひどく驚いたことを覚えています。これは、私達を創られた神様は、私達が神様を知らずと前から私達ひとりひとりのことをよくよくご存知なのだということが、

けます。「ええ、ええ、もちろんですとも。いつも、そばにいるから、あんしんして、生きていきなさい」。

松居友さんは、先住民の宗教やイスラム教、キリスト教といった、宗教の違う子ども達に、この物語をどの様に受け止めてもらっても良いのだと仰いました。この絵本を講演会の中で読み聞かせて頂いた保護者の中には、亡くなった身近な方を思った方もありましたし、自分自身と「かあちゃん」を重ねて聞いた方もありました。私はというと、「ええ、ええ、もちろんですとも。いつも、そばにいるから、あんしんして、生きていきなさい」という言葉が、神様から私にも我が子にもかけ続けて頂いている言葉に聞こえました。

自分が親として何もかも教えなければならぬ、なんとかしなければならぬという困難や混乱も神様はご存知です。いざとなると祈ることも忘れるような自分をも知っていてくださり、捉えていてくださいます。そして、我が子にも「いつも、そばにいるから、あんしんして、生きていきなさい」と仰る神様です。私達を創られた神様が、私達の困難さも生きることも死ぬことも、全てを御手の中に置いてくださると信じて、子育て中のお母様方にも安心して歩んで頂けたらと願います。